

広島・長崎における 1945 年原爆投下前の人口密度：その測定と 原爆被爆者の寿命調査における放射線リスク推定値に及ぼす影響

原爆被爆者がどんな病気（がんなど）にかかっているか、死亡原因は何かについて調べている「寿命調査」では、被爆者が都市部で生活しているか、それとも周辺部で生活しているかということが、放射線量と病気の関係を解明するにあたって何らかの障害となりうるかもしれません。

今回、広島と長崎の原爆投下前の人口分布に関するデータを入手して、人口密度と、固形がん（胃がんや肺がんなど塊をつくるタイプのがん）、死亡の関係を調べたところ、都市部では死亡リスクに若干の差異が見られたものの、この差異は死亡率またはがん罹患率に関する放射線リスクの増加に影響を与えるものではないことが判明しました。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。